

ソーシャルメディアによるフィールドワーク内容のリアルタイム発信：オマーンにおける地考古学調査の事例から Real-time posting of fieldwork information through social media: a case of a geoarchaeological survey in Oman

近藤 康久^{1*}, 野口 淳², 三木健裕³, 小口 高⁴

Yasuhisa Kondo^{1*}, Atsushi Noguchi², MIKI, Takehiro³, Takashi Oguchi⁴

¹ 東京工業大学大学院情報理工学研究所, ² 明治大学校地内遺跡調査団, ³ 東京大学大学院人文社会系研究科, ⁴ 東京大学空間情報科学研究センター

¹Dept. Comp. Sci., Tokyo Institute of Technology, ²Archaeological Research Unit, Meiji Univ., ³Dept. Archaeology, Univ. Tokyo, ⁴CSIS, Univ. Tokyo

研究室を離れて行うフィールドワークは、学術調査であると同時に他地域への訪問であり、非日常の場に身をおいて行う研究活動である。とくに地理学や人類学に関連するフィールドワークでは、調査活動のみならず、現地の食事や宿舎、風景、人々など、あらゆるものが記録の対象となる。ソーシャルメディアには、特定の話題を多数の人々に効率よく伝えることができるという特長がある。また、昨今はインターネット回線の世界的な普及により、僻地からでもリアルタイムないし準リアルタイムで（その日のうちに）情報を投稿できるようになった。いまや、ソーシャルメディアはフィールドワークの情報を日々発信するのに最良の媒体である。

本発表では、上記の考えに至った経緯として、2012年12月から2013年3月にかけてアラビア半島のオマーンで実施した地考古学調査におけるソーシャルメディアを用いた情報発信の事例を報告する。調査メンバーはみな、TwitterまたはFacebookあるいはその両方のユーザーであり、宿舎においてインターネットに常時接続できる環境にあった。ソーシャルメディアへの発信内容は、研究者としての良識の範囲内で、メンバーの自由に委ねられた。発信した情報は、3種類に大別できる。第一は食事や風景、動物、人々との交流など、現地の生活体験や見聞に関するものであり、これが最も頻度が高かった。第二は買い物やメンバーの去来などロジスティクスに関する情報であった。第三は調査地や調査成果に関する情報であるが、これには研究協定やセキュリティの関係上、守秘を要するものが含まれるため、頻度としては相対的に少なかった。これらの情報を総合すると、調査団の公式記録である調査日誌に比肩する量の情報を、外部に発信していることが判明した。ソーシャルメディアを公式のニュースリリースと組み合わせることにより、より効果的な情報発信・アウトリーチが可能になると期待される。

キーワード: フィールドワーク, 情報発信, 即時性, 地考古学, オマーン

Keywords: fieldwork, outreach, immediacy, geoarchaeology, Oman